茨城県教育委員会
Ibaraki Prefectural Board of Education

資料提供（教育庁）　　令和５年４月 26 日

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

茨城県から見つかった新種のクモヒトデ化石
～タイプ標本を当館で特別公開～

茨城県で発見された新種のクモヒトデ化石についての論文が Paleontological Research 誌（日本古生物学会の英文学術雑誌）に掲載されました。それに伴い、当館が所蔵するクモヒトデ化石のタイプ標本を特別公開しますので、ぜひ御取材ください！

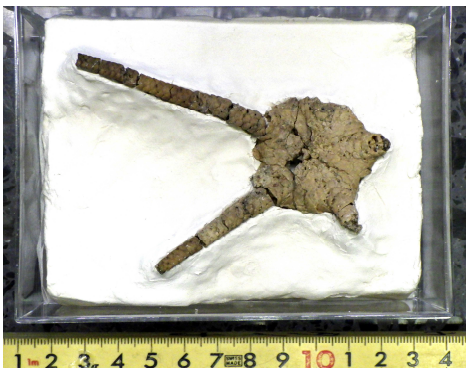
１　研究の概要

茨城県日立市で発見された化石を調査し、ハコクモヒトデ属の新種「ステゴフィウラ・タカイソエンシス *Stegophiura takaisoensis*」として記載しました。種小名は化石の産出地の１つである日立市の「高磯」にちなみます。

２　背景（当館資料の収集から研究利用）

この研究に用いられた３点の化石のうち１点は、当館の第 80 回企画展「化石研究所へようこそ！」のための資料収集調査で当館の加藤学芸員が発見したものです。

企画展で展示された後、この標本は他の２点（国立科学博物館と日立市郷土博物館が所蔵）とともに、クモヒトデ化石の専門家である石田吉明博士によって詳しく研究されました。



新種 *Stegophiura takaisoensis* の化石

３　研究の意義

ハコクモヒトデ属の現生種は、主に深海に生息しています。しかし、これまで知られていたハコクモヒトデ属の化石種は、同じく石田博士が 2018 年に記載した *S. miyazakii* の１種のみで、その化石はおよそ 9500 万年前（中生代白亜紀後期）の浅い海で堆積した地層から発見されていました。

今回の新種が発見された地層は、およそ 350 万～400 万年前（新生代新第三紀鮮新世）の深海に堆積した初崎層という地層です。これにより、白亜紀後期から現在までの間にあった化石記録の空白が埋められるとともに、その進化や生息場所の変化に関する貴重な情報が得られました。

４　掲載された論文

【掲載雑誌】Paleontological Research（日本古生物学会の英文学術雑誌）
【タイトル】The new brittle-star species *Stegophiura takaisoensis* (Echinodermata, Ophiuroidea) from the Pliocene of Ibaraki Prefecture, central Japan. 「茨城県鮮新統産クモヒトデ類化石の新種 *Stegophiura takaisoensis*（棘皮動物門・クモヒトデ綱）」
【著 者 名】石田吉明・田切美智雄・加藤太一・角田昭二・中島保寿・Ben Thuy・ Lea D. Numberger-Thuy・藤田敏彦
【アドレス】https://doi.org/10.2517/PR220028

５　タイプ標本の展示予定

新種のタイプ標本となった化石３点のうち、当館が所蔵する１点を特別公開します。
【日　　程】令和５年４月 27 日（木）から令和６年１月 21 日（日）まで
【場　　所】当館１階ディスカバリープレイス「茨城の地学」

【本資料の詳細についてのお問い合わせ】　（展示・資料）加藤　太一　（広報）田宮　奈津美
ミュージアムパーク茨城県自然博物館　電話：0297-38-0923　FAX：0297-38-1999
〒306-0622　坂東市大崎 700 番地　E-mail: tamiya.natsumi@blue.ibk.ed.jp

※　写真が必要な場合は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館まで御請求ください。